



逆瀬川あゆみ保育園 子育て支援すくすく

本夢由香 2025.12.3

皆さん、絵本は好きですか？絵本には沢山の魅力が詰まっています。今年度は、絵本に関する書籍を活用しながら《絵本について》ちょこっとお伝えしていきたいと思います。



『ろうそくばっ』

みなみじゅんこ作/アリス館

1 番の歌で“ろうそくばっ”と灯りをともし、クリスマスを迎え、2 番の歌で“ろうそくふっ”と灯りを消すと、空にお星さまが輝く…そんな歌の絵本です。覚えやすい歌なので繰り返し楽しめますよ。クリスマスを迎えるこの時期に、つい開きたくなります。

12 月の絵紹介



『いろいろクリスマスツリー』

おおでゆか作/アリス館

題名の通り、いろいろなクリスマスツリーがお話とともに登場します。例えば、どんぐりいっぱい of ツリー、真珠きらきらのツリー、おかし of ツリーなど…。おおでさんの優しく温かい絵がマッチして、ワクワクした気持ちで楽しめます。どのツリーが好き？や、どんなツリーがあるといい？なんて話をするのもいいかもしれません。

【子どもは現実と空想の世界とを、でたりはいたりできる柔軟性のある生き物だが、
大人の頭は概念や理屈が先にたって、これができない】

～『私の絵本ろん』赤羽 末吉 平凡社より～

“絵本の中の出来事が本当の事”とは、大人はなかなか思えませんよね。それは、沢山の経験を経て多くの概念が出来上がっているからです。しかし子どもは、まだまだ柔らかい頭だからこそ、素直に受け入れ、入り込める。その楽しさはとても大きいと思います。また、赤羽氏が書かれているように、現実と空想の世界を行き来できる力も、子どもならではのですね。まさに、その様子を描いているのが『かいじゅうたちのいるところ』モーリス・センダック作 じんぐうてるお訳 富山房出版の主人公の姿ではないかと私は思います。自分の部屋からかいじゅうたちの世界に入り込むけれど、また、自分の部屋にずっと戻れる力。この力は子ども時代ならではの力だと思います。（私は、戻れるなら子どもの感性に戻って絵本を楽しみたい！と心から思う事があります。）また、子どもがいくら絵本を！と思っても、絵本がないと、そして絵本を読んでくれる人がいないと、その入り口に入る事ができません。つまり、絵本の楽しさを感じる入り口は、大人にしか伝えられないという事ですね。それは、大人の大きな役割ではないかと思います。

